

特定外来生物

同定マニュアル

■ 両生類

オオヒキガエル	(<i>Bufo marinus</i>)
ヘリグロヒキガエル	(<i>B. melanostictus</i>)
キューバズツキガエル	(<i>Osteopilus septentrionalis</i>)
コーキコヤスガエル	(<i>E. coqui</i>)
ジョンストンコヤスガエル	(<i>E. johnstonei</i>)
オンシツガエル	(<i>E. planirostris</i>)
アジアジムグリガエル	(<i>K. pulchra</i>)
ウシガエル	(<i>Rana catesbeiana</i>)
シロアゴガエル	(<i>Polypedates leucomystax</i>)

オオヒキガエル

分類: カエル目ヒキガエル科

学名: *Bufo marinus*

英名: Cane Toad, Giant Toad, Marine Toad

和名: オオヒキガエル

別名・流通名: オオヒキガエル、スリナムオオヒキガエル

原産地と分布: アメリカ合衆国から中南米(ブラジルまで)に原産。カリブ海諸島、南太平洋の諸島、オーストラリア、ニューギニア、東南アジア、台湾、日本(大東諸島・小笠原諸島、八重山諸島)に広く移入。

未判定外来生物: ヒキガエル属(*Bufo*属)全種。ただし、在来種ならびに5種(ヨーロッパミドリヒキガエル*Bufo viridis*、テキサスマドリヒキガエル*Bufo debilis*、ナンブヒキガエル*Bufo terrestris*、ガルフコーストヒキガエル*Bufo valliceps*、ロココヒキガエル(キャハンヒキガエル)*Bufo paracnemis*)を除く。

種類名証明書添付生物: なし。

形態的特徴: 鼻先から肛門までの長さは10~20cm。最大23cm。頭は割に大きく、骨状の突起が角張っていて目立つ。ヒキガエル属には、目の後ろに毒を出すためのコブ(耳腺)があるが、オオヒキガエルの耳栓は極端に大型で、菱形をしている。若い個体の肩には対になった模様があるが、雄や年をとった雌には見られない。



オオヒキガエル全身

特記事項: 在来のニホンヒキガエルやミヤコヒキガエルにやや似るが、巨大は耳線により区別できる。国外産のヒキガエル属には類似の種があるが、耳腺の形や大きさなどで区別される。

ヘリグロヒキガエル

分類:カエル目ヒキガエル科ヒキガエル属

学名: *Bufo melanostictus*

英名: Black-spined toad

原産地と分布: 中国南部、台湾からアジア熱帯域(東南アジア、南アジア)に広く分布

未判定外来生物: ヒキガエル属の全種(特定外来生物と在来種を除く)

種類名証明書添付生物: ヒキガエル属の全種(ただし幼生についてはカエル目全種)

形態的特徴

大型のメスは頭胴長150mmに達するが、東南アジア産のものは50~60mmのものが多い。ヒキガエル科の他の種と同様、ずんぐりした体型をして、頭部後方の耳腺、粗面の皮膚、短い後肢などをそなえる。鼓膜は明瞭で、繁殖期のオスは喉がオレンジ色になる。本種の特徴として、眼の周囲から吻端、上唇が黒い隆条で縁取られ、背面のイボの先端も黒く着色する。和名及び英名はこの特徴を示している。



眼の周囲から吻端、上唇が黒い隆条で縁取られる



体表のイボの先も黒い

日本産のヒキガエルには、眼の周囲から吻端に至る黒い縁取りがない。



アズマヒキガエル
(在来種)



ミヤコヒキガエル
(在来種)

全ての写真提供: 自然環境研究センター

特記事項: ヘリグロヒキガエルは、東南アジアや中国南部から輸入される観葉植物に混入するケースがしばしば見られる。よって税関において注意すべき種であり、今後、混入による南日本への侵入・定着を警戒する必要がある。

キューバズツキガエル

分類: カエル目アマガエル科

学名: *Osteopilus septentrionalis*

英名: Cuban Treefrog

和名: キューバズツキガエル

別名・流通名: キューバアマガエル、キューバズツキガエル、
キューバンツリーフロッグ

原産地と分布: キューバ、ケイマン諸島、バハマ諸島原産。
ハワイ、フロリダ、バージン諸島、コスタリカに侵入している。

未判定外来生物: ズツキガエル属(特定外来生物を除く)。

種類名証明書添付生物: ズツキガエル属。

形態的特徴: 樹上性のカエルとしては大型で、成熟個体の鼻先から肛門までの長さは雄で8.5cm、雌で10.2cm程度までだが、16.5cmにも達した雌が記録されている。四肢の指には吸盤がある。頭骨が皮膚と癒合しているため、体を反らせると頭部の後方に皮膚のしわができる。背面の皮膚は粗雑で多数の小さい隆起がある。背面は褐色であるが、赤っぽいものや緑色を帯びたものもある。背面全体が鮮やかな緑色になることはない。背面に虫食い状の斑紋を持ち後足の腿節と脛節に目立つ横縞を持つ個体が多いが、全く無地のものもある。みずかきの発達が悪く、特に前足ではほとんど認められない。



背面の縦帯が比較的明瞭な個体

特記事項: 意図的に輸入されることは多くないが、ペットとして販売されることもあった。狭い隙間に潜み、カエルとしては乾燥に強いいため非意図的な導入のおそれが高い。植木等の資材に留意し、観葉植物の葉の隙間や剥がれかけた樹皮と幹の隙間などにカエルが潜り込んでいないかどうか注意する。ジャンプ力が強く、飼育個体の逸走も予測される。なお、本種は「キューバアマガエル」と呼ばれることが多い。キューバ原産のアマガエル科は本種のみであり、「キューバアマガエル」と「キューバズツキガエル」は同一の種を指す。背面が褐色でざらついていること、成体では比較的大型であること、前足のみずかきがほとんど認められないこと等が特徴。ズツキガエル属の他種は本種に比較的類似しており、頭骨が皮膚と癒合していることが特徴である。

特定外来生物同定マニュアル

コキーコヤスガエル

分類: カエル目 ユビナガガエル科

学名: *Eleutherodactylus coqui*

英名: Puerto Rican Coqui

和名: コキーコヤスガエル

別名・流通名: プエルトリカン・コキー

原産地と分布: プエルトリコ原産。ハワイ、バハマ、ドミニカ共和国、ガラパゴス諸島、フロリダ、バージン諸島などに侵入している。

未判定外来生物: オンシツガエル *Eleutherodactylus planirostris*。

種類名証明書添付生物: コキーコヤスガエル、オンシツガエル。

形態的特徴: 成熟個体の鼻先から肛門までの長さは3~6cm程度。四肢はやや短く、指先には発達した吸盤がある。吻端は尖って見える。背面の皮膚は粗雑で多数の小さい隆起があるが、目立つイボや隆条はない。背面は褐色や灰色で、体側に淡黄色の縦帯を持つ個体や、背面正中線上に淡色の細い縦線を持つ個体がいるが、全く無地のものもいる(写真の個体は無地である)。目の後方から鼓膜の上端にかけて黒っぽい縦線を持つ個体が多い。目の虹彩の上半分が金色で下半分は赤銅色。前足のみずかきはなく、後足でもほとんど認められない。



背面の縦帯が不明瞭な個体

特記事項: 吸盤が発達しておりみずかきがほとんど認められないこと、四肢が短くややずんぐりした体型であること等が特徴。意図的に輸入されたことはほとんどない。ハワイ諸島の一部では高密度に生息することから、切花等の物資に紛れて非意図的に持ち込まれる可能性がある。未判定外来生物であるオンシツガエルはずっと小さく(鼻先から肛門まで1.6~3.2cm)、背面は褐色の地に濃色のまだらがある。温室の中でよく見られるためこの名がある。

ジョンストンコヤスガエル

分類:カエル目ユビナガガエル科コヤスガエル属

学名: *Eleutherodactylus johnstonei*

英名: Johnstone's whistling frog, Lesser Antilles coqui

原産地と分布: レッサーアンティル諸島に広く分布する。バミューダ、ブラジル、コロンビア、コスタリカ、ジャマイカ、パナマ、トリニダード・トバゴ、ベネズエラなどに外来種として定着している。

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: コヤスガエル属の全種(ただし幼生についてはカエル目全種)

形態的特徴: 小型のカエルで、成熟個体の頭胴長は雄で1.7~2.5 cm前後、雌で1.7~3.5 cm前後。背側皮膚は滑らかないし、わずかな顆粒状突起がある。背面の地色は灰色がかった淡黄褐色から褐色で、通常逆V字型の暗色の斑紋が1つか2つある他、しばしば背中線上に細い線か太い一対の縦条がある。虹彩は背側が金色で、腹側が褐色。指先に吸盤がある。



特記事項: オタマジャクシの期間を持たず、湿った陸上に産卵して、小さなカエルが孵化してくる。おそらく、これまでに輸入されたことはないが、レッサーアンティル諸島からの観葉植物などに混入するおそれがある。

オンシツガエル

分類:カエル目ユビナガガエル科コヤスガエル属

学名: *Eleutherodactylus planirostris*

英名: Greenhouse frog

原産地と分布: キューバを中心として、バハマ、ケイマン諸島、タークス・カイコス諸島に分布。外来種としてハワイ等に定着している。

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: コヤスガエル属の全種(ただし幼生についてはカエル目全種)

形態的特徴: 非常に小型のカエルで、頭胴長は1~3cm程度。背面の地色は赤色ないしオレンジ色がかった褐色で、明色の縦条を持つ個体や、明色・暗色のまだら模様のある個体がいる。両眼の間に黒っぽい線があり、その前方は明色である。虹彩は赤味が強い。指先に吸盤があり、吸盤や指の関節付近には小突起が目立つ。後足のみずかきは発達しない。

まだら模様の個体

両眼の間に黒っぽい線があり、その前方は明色である。

四肢の指先には吸盤があり、後足のみずかきは発達しない

背面の左右に明色の縦条を持つ個体



写真: ©2010 Matthew Niemiller
http://calphotos.berkeley.edu/cgi/img_query?enlarge=0000+0000+0110+3604

写真: ©2010 Todd Pierson
http://calphotos.berkeley.edu/cgi/img_query?enlarge=0000+0000+1210+2053

特記事項: オタマジャクシの期間を持たず、湿った陸上に産卵して、小さなカエルが孵化してくる。このため、温室の中で増殖しうる。ハワイやキューバからの観葉植物などに混入するおそれがある。

アジアジムグリガエル

分類:カエル目ジムグリガエル科ジムグリガエル属

学名: *Kaloula pulchra*

英名: Banded Bullfrog

原産地と分布: 中国南部からアジア熱帯域に広く分布。台湾北部に持ち込まれて定着している。

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: アジアジムグリ

ガエル(ただし幼生についてはカエル目全種)

形態的特徴: 頭胴長5.4~7.5cm。メスの方がやや大きい。頭部も目も小さく、鼻先は丸い。ずんぐりした体型で皮膚は概ね平滑、後肢は短くて貧弱である。四肢の指に小さい吸盤がある。背面の黒褐色と淡褐色(または淡橙色)の帯模様が目立つ。背面の色は淡褐色、橙褐色などさまざまである。

ずんぐりした体型で鼻先が丸い。
背面に独特な模様がある。

背面から見たところ



灰色っぽい個体



ヒメアマガエル(在来種)



在来種のヒメアマガエルは本種にやや似ているが、ヒメアマガエルの方がはるかに小型で頭部が小さく、指先に吸盤がない。
奄美以南の森林や水田では普通に見られる。

全ての写真提供: 自然環境研究センター

特記事項: アジアジムグリガエルは、東南アジアなどから輸入される観葉植物に混入するケースがしばしば見られる。よって税関において注意すべき種であり、今後、混入による南日本への侵入・定着を警戒する必要がある。

ウシガエル

分類: カエル目アカガエル科

学名: *Rana catesbeiana*

英名: Bullfrog

和名: ウシガエル

別名・流通名: 食用ガエル、ブルフロッグ

原産地と分布: 北アメリカ東部(カナダ東南部からメキシコ中部に至る)。食用のために、西インド諸島やアメリカ合衆国西部、ヨーロッパ、台湾、韓国、日本等に広く(北海道南部から小笠原諸島、八重山諸島に至る)等に広く移入されている。

未判定外来生物: アカガエル属(*Rana*)のうち、ウシガエルを除いたウシガエル種群。ブロンズガエル*R. clamitans*、ブタゴエガエル*R. grylio*、リバーフロッグ*R. heckscheri*、カーペンターフロッグ*R. virgatipes*、ミンクフロッグ*R. septentrionalis*、フロリダボッグフロッグ*R. okaloosae*の6種。

種類名証明書添付生物: ウシガエル種群。

形態的特徴: きわめて大型になるカエルで、成熟個体の鼻先から肛門までの長さは11~18cm。変態したばかりの子ガエルでも4~6cmある。後足のみずかきがよく発達しており、広がると目立つ。目の後ろから鼓膜の上縁を経て下向きに折れ曲がる皮膚のひだが明瞭。これより後方には皮膚のひだ(背側線隆条)がない。背面の皮膚はややざらつき、腹面は平滑。背面、腹面とも虫食い状の不規則な褐色斑を有するものも多く、大腿下面の黒斑が目立つ個体が多い。若い個体は背面に小さな黒斑が散らばっている。雄の鼓膜はきわめて大型で、目の直径の1.3~1.7倍に達する。雄の喉は黄色い。

全身



雄の頭部



特記事項: 食用や実験用として生きたまま流通している。中国から生きたまま冷蔵状態で輸入されており、それらはほとんど食用に供される。また国内では関東平野を中心に採取されており、これらは実験用などに供給されている。本種のような利用は今後も続くと見られる。鼓膜から後ろに延びる背側線隆条がなく、皮膚に大きなイボや隆起がないこと、後足のみずかきがよく発達していることが特徴。未判定外来生物であるウシガエル種群のカエルは、いずれも比較的大型で、後肢が長く後肢のみずかきが発達している。目の後ろから後方に向かう皮膚のひだ(背側線隆条)がウシガエルと同様に全くないもの(ブタゴエガエル等)、胴の中程まで見られるもの(ブロンズガエル等)がある。

シロアゴガエル

分類:カエル目アオガエル科

学名: *Polypedates leucomystax*

英名: White-lipped treefrog

和名: シロアゴガエル

別名・流通名: ムスジシロアゴガエル

原産地と分布: 東南アジア原産(ネパール、インド東部、海南島からスマトラ島、フィリピンに至る)。フィリピンのは外来という説もある。日本では沖縄島と周囲の伊江島など、宮古と周囲の伊良部島などに定着し、石垣島からも記録されている。

未判定外来生物: シロアゴガエル属(特定外来生物を除く)。

種類名証明書添付生物: シロアゴガエル属。

形態的特徴: 中型のカエルで、成熟個体の鼻先から肛門までの長さは5~7cm。体は比較的細長く、後足が長く痩せて見える。四肢の指には吸盤があり、木に登ることができる。目の後ろから鼓膜の上を経て後方に延びる隆条があり、この隆条の下縁に沿って体側に黒色の帯のある個体が多い。背面の皮膚はやや鮫肌状で、喉から胸の皮膚は平滑。背面は褐色で緑色になることはない。背面から足にかけて濃色の縦縞を数本持つものが多いが、縦縞の代わりに小さい黒点を持つものやほとんど無地のものもある。みずかきの発達が悪く、特に前足ではほとんど認められない。



ともに背面の縦帯が目立つ個体



特記事項: 意図的に輸入されることは多くない。狭い隙間に潜みカエルとしては乾燥に強いいため、非意図的な導入のおそれが高い。植木等の資材に留意し、観葉植物の葉の隙間や剥がれかけた樹皮と幹の隙間などにカエルが潜り込んでいないかどうか注意する。泡状の卵塊(淡褐色の7~8cmの楕円体)が植物などに混入する可能性もある。背面が褐色で目立つイボや隆起がないこと、体が細長く足も長く痩せて見えること、前足のみずかきがほとんど認められないこと等が特徴。シロアゴガエル属の各種は比較的似ており、類似したアオガエル属 *Rhacophorus* に比べ前足のみずかきが発達しない。踵に皮膚の突起を持つ種がいくつかある。